



(※1) 行先・運行番号表示(幕式) 「11F 川崎」「25F 武蔵中原」「13F 武蔵溝ノ口」「45F 登戸」「67F 稲城長沼」「07F 回送」
(※2) 行先・運行番号表示(LED式) 「33F 快速 川崎」「19F 武蔵中原」「45F 武蔵溝ノ口」「23F 登戸」「05F 稲城長沼」「01F 快速 立川」



や「埼京・川越線」とは異なり、ATC関連機器を装備しない、スッキリとした両先頭車の床下を再現しています。なお、前面、側面のJRマークは印刷済みとし、腰板部と幕板部は鏡面シルバー仕上げとして、実車における側窓部とは異なるステンレス素材の違いを再現します。



●ヘッド・テールライト、前面表示(行先・運行番号)の点灯には、常点灯基板による電球色LEDを使用し、テールライトはカラープリズムにより赤色で点灯します。前面表示は、運行番号が幕式の「43F 立川」を装着済みとし、その交換用として、オリジナルの幕式と、2004(平成16年)秋頃からLED式となった各6種(※1・2)を付属しています。また、川崎方先頭車のクハ205形車体側に取り付けるジャンパ栓受けを別パーツで用意、両先頭車の運転台側はスカート付きのダミーカブラーを取り付け、スカート無しの姿も再現できるよう専用ダミーカブラーを付属しています(いずれも、連結器調整・ジャンパ栓・空気配管・乗務員ステップを組み上げ済み)。なお、各車の連結側面は、オプションのボディマウント式密着連TNカブラー(SP)の取り付けに対応しています。

●モデルは南武線用として新製された、ドア窓が下方に拡大され、先頭車屋根上の無線アンテナ(信号管とともに取り付け済み)が車体中心にある姿を模しています。また、先に発売の「京浜東北線」

●モハ205形に搭載のパンタグラフは、シングルアームタイプのPS33形換装前の2010(平成22)年頃以前とし、屋根上にはPS21形パンタグラフを載せています。また、ステンレス製の質感を忠実に再現したAU75G形クーラー、別パーツのベンチレーター、避雷器により、屋根回りをリアルに見せています。なお、連結面のプレスリブと2種の銘板は、川崎重工業製の後期型に倣った配置としています。



205系(南武線・新製車)セット(6両)

1929(昭和4)年12月に全線が開業した、私鉄の南武鉄道を前身とするJR南武線は、東海道線川崎から、中央線立川に至る35.5kmの路線をメインラインとし、旅客輸送と貨物輸送を長く行なってきました。同線の旅客輸送には、戦時中の国有化後しばらくの間は南武鉄道の杜形電車が使われ、戦後に17m級や20m級の旧形国電が転入、さらに72・73形も使用されました。その後、南武線には昭和40年代中頃から新性能化を目的に101系が、1982(昭和57)年6月より103系が転入し、JR化後の1989(平成1)年2月からは101系置き換えのため、205系が新製投入されました。以降、205系は増備が重ねられ、併せて103系置き換えのために、山手線からの転入車も加わり、最盛期には南武線の主力として、少数の209系とともに活躍しました。現在は2014(平成26)年10月から運転を始めたE233系が活躍しています。

205系シリーズ第7弾となる製品は、1989(平成1)年から4次にわたって新製増備が重ねられた南武線の205系通勤電車を、実車編成そのままの6両セットでラインナップ致します。モーター車にはM-13モーター使用のフライホイール付き動力ユニットを、トレーラーには新集電システムを採用し、いずれも黒色車輪を用いています。また、本セットには転写シート(車体番号、ATS標記(B/PB/P SN B)、シルバーシートマーク、弱冷房表示、編成番号)と、交換用の行先・運行番号表示パーツを付属しています。

205系

(南武線・新製車)

■ JR 205系通勤電車(南武線・新製車)セット(6両)
<98872> 予価¥26,950(税込)

JR東日本商品化許諾済

4月発売予定